

## 第 13 号【続編・その 2】(2009.08.23 配信)

「横浜の話」続き。その 2 「神奈川宿」(宿場があった神奈川)の周辺の現況

過日お知らせした通り、横浜市神奈川区に住む友人と、150 年前の横浜開港の頃、そもそも初めの開港候補地だった宿場町の「神奈川」とは今のどの辺りか、位置確認に歩きました。この「続き・その 2」は、そのレポートです。

とはいえ、いわゆるルポ記事ではありません。いずれ「神奈川」～横浜方面に行ってみようという方々へのガイドになるように、行き方、歩き方、めぼしい地点や現在の建物などの情報を記したレポートです。どうぞ参考にして頂き、歴史的な場所を訪ねてほしいと思います。順不同ながら要点を数行ずつにまとめ、ナンバーを付けて記していきます。

1. 友人とは、真夏日の午前 10 時に、JR 京浜東北線「東神奈川」駅の改札口で待ち合わせました。一般的に集合場所は、参加者の都合もあって特定が難しいけれど、「神奈川宿」行きには、JR のここが最適と考えられます。しかも改札口は中央の 1 ヶ所だけで、間違ふことはありません。他に、私鉄の京浜急行電鉄の「神奈川」駅(後述)、「神奈川新町」駅等もありますが、便利度が多少違います。

2. 独り旅より数人のグループで散策気分で歩くのがよいと思います。この日の案内役は長年の「神奈川区」在住者で、区が主催した神奈川宿のセミナーに何度も参加した女性。「ちょっと詳しいわよ」と言って案内してくれました。私にとっては、この上もない同行者でした。二人だけではモッタイナイ。両名とも旧知の友人(やはり女性)も誘って 3 人づれになりました。彼女は県内・平塚市在住者ですが、亡夫のお墓がこの日予定した通り道のお寺(後述)にあり喜んで参加、揃っての墓参の機会ともなりました。

3. 改札口で会うや、案内役の友人が用意してくれた『神奈川宿歴史の道』という折り畳み式パンフレットを受け取りました。「神奈川区役所」刊行で、問い合わせ先が「区政推進課」(TEL: 045-411-7026)です。事前に照会して入手できれば便利です。歩く順路を例示した略図入りです。同区は他の情報類も提供しています。後段で逐次紹介します。

地図は不可欠なので、私自身、自宅にある『神奈川県情報図』(徳間書店版)から「東神奈川」2 ページ分の見開き A3 版をコピーして持参し、彼女の誘導に沿って適宜マークを付けて歩きました。「地図の読めない女、話の聞けない男」という言葉をよく聞きます。いつ頃からポピュラーになった言葉でしょうか？ 彼女は、私と年齢も近く、若年者とは言えないのに、地図も読めるし、順路を熟知し、案内役としては上出来でした。

4. この日の散策は、駅のすぐ北側の「京浜第二国道」= 国道 1 号線と、駅よりやや南側の「第一京浜」= 国道 15 号とが平行して走っている、その中間のごく狭い地域でした。つまり、平行する 2 本の国道に挟まれた区域に、150 年前の「神奈川宿」の名所・旧跡が詰まっている、といえます。お寺の内部に入り住職から話を聞いたらばともかく、2 時間もあれば、一通りの理解と重要な場所の確認にはタップリ過ぎるくらいです。

因みに、散策の終点地・青木橋(後述)は、もう「横浜」駅に近い。上記の平行の国道はここで一本化して「東海道」= 国道 1 号となります。「神奈川宿」の位置を知るには、この範囲だという把握が有効で、散策は午前中にとどめ、ランチ会につなげました。

5. 150年前は、陣屋も宿も商店や寺社もすべて木造ですから、開港前後の開発・整備で宿場町はどんどん姿を変えました。「神奈川」といえば、今でも台地で知られ「高島台」「台町」の町名が残っています。しかし多くの高台は、横浜港を埋め立てて構築するため、かなり削り取られてイメージが変わったとのこと。

明治5年(1872)には新橋～横浜間に日本で初めて鉄道が開通しました。宿場町の様相は一変したはずですが、だいぶ後年になりますが、関東大震災で横浜は壊滅的な打撃を受け、太平洋戦争の末期には焦土と化しました。結論をいえば、150年前の「神奈川宿」と関連施設は、度重なる社会的変動の連続で、すべて姿を消しました。この日に歩いて確認できたのは「史跡」であり、幾度も立て直し幾百年も存続する古刹の今日の姿です。

6. 「神奈川区」は、開港当時の由緒ある名所や旧跡の入り口に、『神奈川宿歴史の道』と名づけた「ガイド・パネル」を設けています。当時の絵図と小解説が示され、散策の途中で足を止め、歴史や経緯の概略を知ることができます。パンフレットはそのつど開くのもいいけれど、むしろ“復習用”に適しています。散策中に歩いたお寺や神社など、ほぼすべてが「ガイド・パネル」設置場所でした。一つ一つ書き記すと切りがないので、歩いた順に、ごく代表的な場所(下線)を例示しておきます；

釜蔵院(駅から数分で目印に) 熊野神社(全国随所にあり、ここにも) 高札場(実物通り再現) 成仏寺(当時のアメリカ宣教師宿舎。友人の亡夫の墓に合掌) 慶運寺(同・フランス領事館跡。後述する「浦島伝説」の寺) 神奈川の大井戸(幕府の将軍や明治天皇の通行の際に使われた)と宋興寺(医者だったヘボン博士が施療所を開いた) 州崎大神(源頼朝が安房国の安房神社の神をここに招いた由) 甚行寺(当時フランス公使館に当てられた)。

上記の例示を見ても、実際に歩いていくとなおさら、お寺が多いのに驚かされます。神社も少なからずです。なぜ？と同行の友人に尋ねると「住人、商人が多かったから」という返事でした。名だたる宿場町で、今日まで「宮前商店街」が残るほど、繁盛した地域だったからでしょうか。

7. 慶運寺から大井戸に向かう道沿いに、「滝の川」が流れ、今の町名は、左岸(駅側)が「神奈川」、右岸(大井戸側)が「青木町」と呼ばれていますが、両側とも、当時の「神奈川宿」の区域内、しかも中心地だったそうです。川には「土橋」という名の地味ながらしっかりした橋が架かっています。渡って行くと、橋の上から川下(海側)を眺めた右側(右岸)の「高速神奈川1号横羽線」の下辺りが、「神奈川宿」の「本陣」(江戸時代、宿駅で諸大名などが宿所とした公認の旅館)があった場所とのこと。今やその面影を偲ぶのは到底無理ですが...

8. 州崎大神、甚行寺を経て宮前商店街を抜けると、交通の要衝で陸橋の青木橋に出ました。橋の下には、東海道本線、横須賀線等々、左手に見える横浜駅に出入りするJR各線が走っています。橋のもとに京浜急行電鉄の「神奈川」駅があり、真夏日でしたので散策はここで切り上げました。汗をかいたし一休みするより、ここから下り線に一駅乗って、横浜駅のビル内で水分を補給しランチをとることにしました。

ということは、橋の向こう側の、史跡に相当する「本覚寺」は次回に残したわけです。ここは、開港当時、アメリカ領事館に当てられ、庭の松の枝が切り落とされたり、山門がペンキで塗り尽くされたり、物議を醸した由です。青木橋から眺めると、なかなか壮大なお寺です。追って、行ってみたいという方があれば、今度は私のご案内しましょうか。

9. 「神奈川区」提供の「ガイド・パネル」は、上記の6でご説明しましたが、同区は開港150年を記念して「区の資産:わが町かながわ とっておき」と呼ぶPR紙を作っています。問い合わせ先は、地域振興課(TEL: 045-411-7086/045-323-2502)です。

案内役の友人が私に手渡したコピーは、「フラッシュ」紙 No. 4「第二回・浦島伝説」。地図、写真入り、ややマンガチックなお話で、上記の慶運寺境内で「浦島寺碑」「浦島父子塔」などを見ました。そういえば区内には浦島町、新浦島町あり、浦島丘中学校もあって、「神奈川区」は浦島物語がよほど好きなようです。

区役所というと、何かの手続きとか届出とかを連想しがちですが、地域の歴史やソフトなPRに取り組んでいる実態を知って嬉しく感じました。照会や相談に利用なさってください。

(8月20日記。国際サブロー)